

日本が目指すべき将来ビジョン 「生活者共創社会」発表

団法人

同友会



10月11日、櫻田代表幹事は記者会見を行い、これから日本が目指すべき社会の姿として、「生活者共創社会」という構想を発表した。世界においては、グローバル資本主義と先端テクノロジーの拡散に伴う格差や分断の拡大が社会の安定を揺るがし、日本においては30年に及ぶ経済の停滞とさらなる衰退が憂慮されている。こうした状況を打開し、日本を「いて欲しい国、いなくては困る国」として再興する鍵はどこにあるのか。企業経営者同士が、さらには「未来選択会議」などを通じて、若者・社会のステークホルダーとも対話を重ね、模索してきた集大成が、「生活者共創社会」である。本号では、その全体像とキーワードを紹介する。

「生活者共創社会」で実現する多様な価値の持続的創造

—生活者(SEIKATSUSHA)による選択と行動—

全体像とキーマッセージ

第1章

経済社会の停滞・衰退の中で 展望が描けずに苦慮する人々

- 日本の経済社会は多くの課題を抱えており、「失われた10年」という言葉を更新し続け、今や「失われた30年」に
 - 逆転の発想で「課題解決先進国」を目指しながらも課題解決は進まず、将来展望を描けずにいる
- (1) 賃金・所得の伸び悩みで高所得国とは言い難い日本
 - (2) 商品・サービスの相次ぐ値上げでコストプッシュ型インフレの懸念
 - (3) 長寿化・人口減少する社会で^{みっしょく}払拭されない将来不安

第2章

失った30年は 政治・行政・企業による不作為

- 多くの課題が未解決のまま放置され、「変わらなかった」ことは不作為が原因
 - イノベーションによる社会変革を主導すべき民間、企業経営者には気概に欠けていた
- (1) 議論が出尽くした日本の課題と処方箋
～人口問題、食料自給率、経済成長率、財政健全化、人々の政治参加意識
 - (2) 想定外の事態の発生と迅速・的確とは言えない対応
～東日本大震災、新型コロナウイルス感染症対応、緊迫する国際情勢に伴う諸課題への対応
 - (3) なぜ日本は、目標を達成できなかったのか、変われな

かったのか

- ～グランドデザインを欠く成長戦略、周回遅れのDX、経済大国としての現状への慢心と既得権の温存
- (4) 過度に悲観せず、現状を再確認し、生活者視点で日本再興
～相対的に小さい貧富の格差と中庸・分厚い中間層、高い教育水準、中小企業群の存在

第3章

幸福と成長に必要な価値創造と 「生活者共創社会」

- 社会の安定と発展のため、一人ひとりの幸福感の向上を追求。そのため、社会課題解決、付加価値創造、社会変革を継続
 - 「自利」のみを追わない日本ならではの精神性と志ある個人、それらの個人から成る組織＝生活者が社会変革の原動力
 - 経済成長、社会包摂、持続可能性の面から価値を創造し、世界の幸福と成長に貢献すると同時に、すべての生活者が誇りと将来への希望を持てる社会を目指す
- (1) 日本の強みを引き出し、強みを活かす「生活者共創社会」
 - (2) 開かれた議論を通して選択肢を提示する「未来選択会議」
 - (3) 日本のパーパス・存在価値と若者が描く日本らしい社会の姿
 - (4) 生活者が果たすべき現代社会「今」を支える責任
 - (5) 生活者が果たすべき未来社会「これから」を創る責任

第4章

価値創造基盤の強化と 日本らしいイノベーションによる成長

●人材とデジタルへの投資、人類・地球の持続可能性の向上に貢献する価値創造、中小企業をはじめとする多種多様な生活者の挑戦、テクノロジーの社会実装等を手掛かりに、日本らしいイノベーション創出を目指す

- (1) 個を尊重し将来を生き抜く力を育てる教育
- (2) 人材とデジタルへの長期的投資で価値創造基盤を構築・強化
- (3) 利他の精神・パーパスに基づく付加価値の創造
- (4) 挑戦の総量拡大と中小企業の競争力強化による付加価値の創造
- (5) 社会実装のエコシステム構築による付加価値の創造

第5章

ダイナミック・インクルーシブ・ サステナブルな分配

- 従来の所得再分配にとどまることなく、経済社会における資源の最適化を図るための分配を
- 成長・イノベーションの牽引役の後押し(ダイナミック)、生活者一人ひとりの自立・活躍の支援(インクルーシブ)、

地球環境と財政の持続可能性の向上(サステナブル)のため、官民それぞれが分配を担う

- (1) 従来の所得再分配にとどまらない分配の発想
- (2) ダイナミックな分配でより質の高い経済成長を実現
- (3) インクルーシブな分配で社会的公平性・公正性を担保
- (4) サステナブルな分配で地球環境・財政の持続可能性を向上

第6章

顧客と市場を創造して高める 企業価値とその評価

- 顧客の創造、市場の創造、新たな価値創造を主導するのは企業経営者の役割
- 現在の欲求・課題への対応と、将来の価値提供に向けた投資という「両利きの経営」が不可欠な時代。経済同友会は、企業価値を測る方法、真の経営者の育成を主導
- (1) 真の経営者の役割は顧客と市場の創造
- (2) 挑戦を応援し、失敗を許容し、成功を讃え、真のリーダーを育てる経営
- (3) 短期と長期の企業価値を経営者が語る両利きの経営
- (4) 経済同友会は経営者自身で企業価値を探究

「生活者(SEIKATSUSHA)」とは

- 家族の一員、地域社会の住民、有権者、消費者、働き手など、多面的な役割・立場を持つ「個人」全て、「個人」が集まって構成するさまざまな組織(企業、団体、政党、議会、自治体、府省、学校など)を含む。
- 生活者が、それぞれの価値観・考えに基づいて、消費、投資、進学、就職、投票などの機会に、主体的に選択・行動する。「生活者」による当事者としての参画と、未来に向けた選択によって共に創り上げる社会こそが「生活者共創社会」である。

経済の規模だけではなく、社会のあらゆるステークホルダーのHappinessという多面的な価値、質的な成長を追求するクオリティ国家
(世界から見て「いて欲しい国、いなくては困る国」)

- 生活者＝消費者、働き手、家族の一員、コミュニティの担い手として、多面的な役割を持つ全ての「個人」を包含
- 個人が構成する全ての組織(企業、学校、自治体、政府)など、社会のあらゆるステークホルダーを含む
- 生活者の主体的な選択と行動(＝消費、進学・就職、投票)を通じて、豊かさ、Happinessなどの「価値」を創り出す



近い将来(10年後)の「生活者共創社会」の姿

例えば…

■子ども・若者

安心・安全に暮らし、伸び伸びと個性・主体性を発揮できる。(画一的な指導から個性・発達に応じた教育へ／飛び級も当たり前に／金銭面の不安なく大学進学)

■すべての個人

生涯を通じて価値創造力を高めて、自らのパーパスに基づき主体的な参画によって挑戦できる／社会全体でそれを支える。(女性の社会進出・男性の家庭進出／ストレスのない仕事と育児・家事の両立／失業・学び直し、就業のブランクを恐れない)

■企業等

パーパスを明確に掲げ、それを価値創造力・競争力に結びつけ、規模・業種・形態を問わず、活力に満ち溢れている。(イノベーションを通じた社会課題解決が、経営者の最重要ミッション)

■政府

政府は中福祉・中負担も含めた持続可能な好循環で信頼を獲得し、一人ひとりが政策決定に参画する機会を主体的に活用している。(社会インフラのデジタル化／国民の幸福度の計測・公表)